



トピックス…③

平成28年度酪農教育ファーム・スキルアップ研修会の概要

本会議は、平成28年度の酪農教育ファーム・スキルアップ研修会を全国6会場で開催した。本年度の研修会では、酪農教育ファーム活動の基本である「安全・衛生対策」を再確認するとともに、各々の課題に即してファシリテーター技術を磨くためのプログラムが実施された。

1. 研修の目的

スキルアップ研修会は、酪農教育ファーム・ファシリテーター（以下、「ファシリテーター」という）の認証更新のため、3年に一度受講することになっており、本年度は136名が受講した（表参照）。

本年度の研修目的は次のとおりである。

- ① 交流活動が安心して行えるように、安全・衛生対策について再確認する。
- ② ファシリテーターは経験年数や年齢、地域間などの差により、問題意識や課題の持ち方は様々である。そこで、各ファシリテーターが各々の課題に即して技術の向上を図れるように種類別のプログラムを実施した。

具体的には、酪農教育ファーム活動の目的である「食」と「しごと」、「いのち」の学びについて、より本質的な活動、つまり子どもたちを中心にした体験者自らが気づき、日常生活に活かせるようにファシリテーター技術を磨いた。また、いずれのプログラムも参加者同士が意見・情報交換できるようにディスカッションの機会が設けられた。

③ 本会議から、最近の酪農をめぐる情勢（生乳需給の状況、規制改革の状況、指定団体制度の重要性など）について説明する時間を設け、情報・問題意識の共有を図った。

酪農教育ファーム・スキルアップ研修会の開催概要

	大阪会場	東京会場	名古屋会場	仙台会場	札幌会場	福岡会場
開催日	9月9日	9月30日	10月14日	10月28日	11月11日	11月25日
開催時間	11時00分～16時30分					
開催場所	ユーズ・ツウ (大阪市)	港区立商工会館 (港区)	(株)アクションラボ (名古屋市)	ヒューモスファイブ (仙台市)	北農ビル (札幌市)	リファレンス駅東ビル (福岡市)
安全衛生 対策 講師	愛知県学校給食牛乳協会 事務局長 木島秀雄	千葉県農業共済組合連合会 中央家畜診療所 係長 鳥田 亘	愛知県学校給食牛乳協会 事務局長 木島秀雄	千葉県農業共済組合連合会 中央家畜診療所 係長 鳥田 亘	愛知県学校給食牛乳協会 事務局長 木島秀雄	南いとしま動物クリニック 院長 酒井由紀夫
ワーク ショップ 講師	イナアソシエーション 代表 立野美香	加茂牧場 加茂太郎	イナアソシエーション 代表 立野美香	NPO 法人いぶり自然学校 代表理事 上田 融		加茂牧場 加茂太郎
受講者数	19名	34名	33名	18名	23名	9名

2. 研修の内容

(1) 講演

- 1) 酪農教育ファームにおける安全・衛生対策の確認
(講師) 愛知県学校給食牛乳協会

事務局長 木島秀雄氏

安全な酪農体験とするための対応ポイント、動物由来人畜共通感染症への対策、牧場（酪農）と特に関係の深い家畜伝染病（口蹄疫等）の予防対策、生乳の衛生的な取り扱い方、手作り体験で共通する注意点等について説明した。

- 2) 酪農教育ファームにおける安全・衛生対策の確認
(講師) 千葉県農業共済組合連合会

中央家畜診療所 係長 鳥田 亘氏

体験受け入れ前に実施しておくこと、安全対策（危険区域の確認、アレルギーへの配慮、熱中症対策、怪我についての留意点）、衛生対策（飼養衛生管理基準の確認、感染症の種類とその対策）、生乳の取り扱い、手作り体験時の注意点等について説明した。

(2) ワークショップ

- 1) ツールひとつで「いのちの大切さ」を語る

(講師) イナ・アソシエーション 立野美香氏

酪農教育ファーム支援ツールをはじめ、牧場にある道具や乳牛の飼料など、酪農体験で使用する「ツール」の使い方に一工夫加えることで、相手への伝わり方が格段

に進歩する極意を参加者同士の知恵、知識、経験を持ち寄りながら見つけて行くワークショップを実施した。

- 2) 体験プログラムをブラッシュアップ ～プログラムを再確認し、体験の質を上げる～

(講師) 株式会社 加茂牧場

代表取締役 加茂太郎氏

自らが行う酪農体験の目的（ねらい）をもとに、「導入」、「展開」、「まとめ」の項目に振り分け、自らのプログラムを分かり易く説明した。その上で、留意点やポイントを整理し、目的にたどり着く内容になっているかどうかを検証した。

- 3) このひと言にたどり着くための、仕掛け方を考える
(講師) NPO法人いぶり自然学校

代表理事 上田 融氏

体験終了後に、子どもたちに言わせたい「ひと言」を決め、そこにたどりつくまでのプロセスを、ワークシートを使いながらバックキャスト（目標を設定して将来を予測）していく方法を説明した。

具体的には、牧場に到着したときあるいは体験が始まる前の子どもたちの心境やリアクションを起点に、それに対するファシリテーターの活動内容や台詞などを考え、その後、5段階くらいを経て、最後に子どもの心境やリアクションで言わせたい「ひと言」にたどり着くためのストーリーを描いていく。